



### 灼熱日本列島

1933年7月25日、山形で**最高気温 40.8℃**を記録。これが、2007年に塗り替えられるまで74年間も日本の最高気温の記録となっていました。クイズ番組などでも取り上げられましたし、私などは幼少期から誰彼に吹聴してきたものでした。それが、20世紀半ば以降の地球規模の気温の上昇が進む中、2007年(平成19年)8月16日、埼玉県の熊谷と岐阜県の高岡で**40.9℃**を観測し、山形は最高気温日本一の座を譲ってしまったのでした。今年の夏も、日本は灼熱列島のようなので、十分気を付けお過ごしください。



さて、ロシアによるウクライナ侵攻から6月24日で4カ月になります。戦火が消える兆候はいまだに見いだせず、落しどころを巡るプーチン、ゼレンスキー両大統領の立場や要求はますます乖離しているようにすら見えます。**一步進んで二歩下がり、二歩進んだと思ったら三歩下がり**…といった攻防が長期化するとの見方が強まってきました。市場への影響も、一步進めば(例えばウクライナ東部で両軍が一時的に休戦)、株価は若干回復し、食料やエネルギー価格も落ち着くといった具合です。そして、その数日後に二歩下がれば(例えばプーチンが「自らの欲求が得られるまで戦いを続ける」と再び東部への爆撃を開始すると)、たちまち逆の現象が起っているのです。市場の戦況に翻弄される状況は、長期化するのでしょうか。さて、読売新聞には、[視点 参院選2022] **リーダー「向かう先」示せ…遠藤乾** 東大教授の論考が掲出されていました。世界はいま多重危機のなかにいる。…こうした局面で、**リーダーに求められているのは「何をするか」以上に「どこに向かう」のか、その方向を国民にしっかり指し示すことだ。**…岸田首相は昨年の自民党総裁選で「新しい資本主義」を提唱した。(そして)参院選の論点の一つとなっているのだ。成長だけでなく分配にも目を向けた。時宜にかなった主張だ。…ただ、その中身は曖昧なままだ。「新自由主義からの脱却」を言うなら、「リスクの共有化」を提示するなど、具体的な道筋を明示してほしい。「新時代リアリズム外交」も同様だ。…どんな危機も、やがて終わりを迎える。新型コロナウイルスの大流行は、ワクチン接種の普及などで、収束の方向だ。他方で、ウクライナ危機は東アジアにも波及する懸念がある。(現在の“プーチン・ロシア”に同調の構えの北朝鮮…)…今回の参院選は、そんな転機で迎える。危機的状況では、リーダーの権限は大きく膨らむ。例外的に強権的な政策も遂行できる。…コロナ後の対応で、どんな戻り方をするのか。ウクライナ危機とその後をどう見通すのか。危機後のビジョンも参院選で問われている。こんな折、スウェーデンとフィンランドの**NATO加盟問題で、トルコのエルドアン大統領**の国際政治での存在感が大きく増しています。「トルコを守る強い大統領」としての国民へのアピール狙いであることは明白ですが、一石二鳥どころか**三鳥四鳥**も狙う大統領のしたたかさには驚かされます。**これに対し、G7サミットなどでのわが国宰相の“欧米主要国には何でも同調する”ような姿勢よりは、「アジア唯一の代表国日本」、「唯一の被爆国日本」の宰相として、日本は「どこに向かおう」とするのか、国際的視野に立ったメッセージの発信を望むのは私だけではありませんか……**

